



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方におのみお送りしています

第 83 号(2014 年 1 月 10 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

目次

- 年頭にあたって
- 在学生の活躍から（外務省主催「大学生国際問題討論会 2013」に参加して）

-
- 年頭にあたって

みなさま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

「光陰矢の如し」、「歳月人を待たず」。いずれも月日の経つのが早いことを言い表すことわざですが、「光陰矢の如し」は余りにも即物的に過ぎる嫌いがありまして、個人的には「歳月人を待たず」か、いささか教訓めいてきますが、「一寸の光陰軽んずべからず」の方が好みに合っています。

ところで、教師生活の中で月日の経つのが早いことを実感しますのは、これから迎えることとなります卒業シーズンのときです。とくに入学直後の「法政基礎演習」ではじめて知り合い、その後の「演習」等では顔を合わす機会のほとんどなかった学生さんを卒業時に見かけたときなど、一種の驚きであり、その驚きの中で最大部分を占めるものが「歳月人を待たず」です。またその際、彼（彼女）の確かな成長の跡を確認すると同時に、自らの成長をも確認できるというのであればまだしも、そうでないときにはなおさらその感を強く意識せざるを得なくなります。ただ幸いなことに、わたしたち教員には卒業生を送り出したすぐ後に再び新入生を迎えるという、この上ない元気の素があります。わたしもう 30 回を超えるほどこうした繰り返しを体験してきているのですが、人それぞれが異なるように、その繰り返しも決して一様ではありません。若い学生諸君と日々接することの幸せを改めて噛みしめたわたしの正月でした。

というわけで、月並みなご挨拶と相成ってしまいましたが、年頭にあたり、みなさま方のことし一年のご多幸とご健闘を祈念申し上げますとともに、ことしもまた法学部へのご支援をお願い申し上げまして、ご挨拶に代えることといたします。

法学部長 小山 正善

-
- 在学生の活躍から（外務省主催「大学生国際問題討論会 2013」に参加して）

外務省主催「大学生国際問題討論会 2013」に参加して

この夏、私たちは外務省主催の大学生国際問題討論会 2013 に参加しました。この大会は、「日本政府は、日・ASEAN 関係強化のために、ASEAN 各国から積極的に労働者を受け入れるべきである」という論題に対して立論書を提出し、選考によって選ばれた 4 つのチームが肯定側と否定側に分かれて議論を戦わせる、というものです。岡山大学を代表した私たち「白桃組」は、全国から応募があった 37 チーム中、ベスト 4 に選ばれ、奨励賞を受賞しました。また、その後岡山大学からも、「平成 25 年度岡山大学学会賞等受賞者表彰」の栄誉を頂きました。

さて、この大会に出場するにはまず提出する肯定側としての立論書が選ばれなければなりません。私たちは立論書を書くにあたって、「なぜ労働者なのか」「なぜ ASEAN なのか」などといった基本的な事から考えてみました。これらの質問は一見簡単そうに見えるかもしれませんが、突き詰めて考えるととても難しいものでした。

そうして浮かび上がってきたものが、「日本がグローバル化する国際社会にどう貢献できるか、その中でどうやって生き残ってゆくか」という視点でした。そのように論題を考える事は、「グローバル」とはどういうことか、そして私たちの発展途上国に対する考え方を見直すよい機会になりました。

しかし、自分では完璧だと考えていた立論も、相手の質問や反論次第でいとも容易く崩れてしまいます。私たちは様々な文献やインターネットを活用し、また専門の先生方にも意見をお聴きしながら、自分たちの主張を組み立てていきました。

本選当日の様子、そして活動全体を通して学んだことは、主に以下の3点です。

まず1点目は、他の参加校（聖心女子大学・早稲田大学・青山学院大学）、学生の意気込みの強さです。実際にディベートを行った学生は勿論のこと、同じゼミに属する学生や、先輩・後輩だと思われる学生たち、立論書を提出したものの本選には進めなかったチームが客席に多くみられ、ペンを忙しく走らせている様子は大変印象的でした。彼らはグループで、かつ1年以上も前から実際の大会を傍聴し、すでに来年に向けて準備を進めているのです。

つぎに、議論を交わす相手ではなく、あくまで第3者として客観的にやり取りを見ている聴衆を、いかに納得させるかが大切であるということです。ディベートに限らず、ただ専門的な背景知識を持った人だけが理解できるような話し合いは、差別や不平等につながる恐れがあると感じました。単に私自身の勉強不足かもしれませんが、今回参加した大会では、一般の市民にいかにか論理的にわかりやすく意見を述べるかという点があまり重要視されていなかったように思います。

そして3点目は、あらゆる情報をただ徹底的に収集するのみではなく、自身の中でそれらをよく吸収することの重要性です。一通りの文献に目は通したつもりでいましたが、いざ本番になると情報やデータがなかなか出てこない。インプットしたものをよく消化し、スムーズにアウトプットできる訓練が不十分であったと痛感しました。

以上のように反省点は多々あるものの、事前の準備から本番当日まで2人で協力して納得のいく討論を行うことができ、大きな達成感を味わいました。大会が終了した後もASEANと日本の関係・将来に引き続き目を向けさらに理解を深めていくと同時に、今回の受賞を励みに、今後も様々なことに積極的にチャレンジし、ひいては国際的な大会にも参加したいと考えています。

最後に、長期休暇中にも関わらず暑い中わざわざ自習室へ来てくださり、資料収集やディベート練習などでお世話になった先生方、本当にありがとうございました。

法学部一回生 小川 未由季、山本 蒼

-
- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
 - ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>
 - ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
 - ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://www.law.okayama-u.ac.jp/local/mail/>
 - ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。